

---

# 孫悟空がいないドラゴンボール

木暮閣下

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

孫悟空がいないドラゴンボール

### 【Nコード】

N9431X

### 【作者名】

木暮閣下

### 【あらすじ】

浅はかなにわかオリ主のせいで惑星ベジータは史実よりも1年早く消滅してしまった。

そして同時期、惑星ベジータから遠く離れた地球で、ある現代日本人の意識が覚醒する。

「あれ？ 鼻がない」

これは孫悟空を失ったドラゴンボールの世界に現れた、1人の憑依系主人公の物語である。

## プロローグ（前書き）

見切り発車で新連載開始、息抜き連載なのでハイパー不定期更新になると思われませう。

## プロローグ

エイジ720年、サイヤ人とツフル人との全面戦争真つ只中の惑星プラントに1人のサイヤ人男児が産まれる。

その男児、産まれながらにして戦闘力5000を誇る超エリート、その正体は“神”を名乗る存在によってこの“ドラゴンボール”の世界に送りこまれた転生者だった。

男児はすくすくと育ち、齢15を越える頃には既に戦闘力60万を突破する怪物と化していた。

しかし、彼には欠点があった。

1人の人間としての欠点と言うよりは、1人の“転生者”としての欠点と言うべきか。

彼は“神”に自分の転生先を“ドラゴンボール”にしてもらいながら、どうしようもなく“にわか”だったのである。

「フリーザ様の戦闘力って53万だろ？ オレのがつえーしww  
」

彼はフリーザが3回の変身が可能であることを知らなかった。

原作を読まず、有名な「戦闘力53万」というフレーズだけでフリーザを自分より弱い存在であると断じてしまったのである。

エイジ736、“転生者”がフリーザに牙を剥く、それを機にフリーザに反感を抱いていた多数のサイヤ人が同調し反乱を起こした。

当時16歳、戦闘力を65万まで伸ばした“転生者”は第2形態に変身したフリーザによって為す術もなく殺される。

サイヤ人に確かな脅威を覚えたフリーザは、惑星ベジータを強襲、利用価値のあるなし問わず全てのサイヤ人を惑星ベジータごと宇宙の藻屑にする。

原作では生き残ったベジータ王子も例外ではなかった。

そして全ての出来事は史実より1年早く行われた。則ち“孫悟空”が産まれるより1年早く行われたのだ。

悟空の父親になるはずだった男バーダックは死に、“孫悟空”が産まれることはなくなった。

“転生者”が現れた世界はその影響によって“孫悟空”という絶対的主人公を失った。

そして物語はその世界の地球で、1人の“現代人の意識”を持った赤ん坊が目覚めたところから始まる。

「あう？ あうああい」（あれ？ 鼻がない）

これは1人の“憑依系主人公”の物語である。

## 予想外（前書き）

1話ごとの長さは不定、暫くは短いと思います。



## 予想外

俺は日本の埼玉県在住の至って普通のフリーター、として生きた前世の記憶を持っている。

あの日、トラックにひき殺されたはずの俺が、鼻のない赤ん坊としてこの世に生を受けた運命の日から、12年の月日が流れた。

どうやら俺は鼻がないことを親に気味悪がられ、孤児院の門の前に捨てられたらしい。

らしい、と言うのは、赤ん坊の時の記憶が曖昧だからだ。少々特殊な事情で赤ん坊の時から自我が確立していた俺とは言え、赤ん坊の頃は殆どの時間を睡眠に費やしていたのだ、覚えていることは少ない。

そんな俺は4歳になると、今度は多林寺という寺に預けられた。

多林寺は武芸を学ぶ、所謂武道寺と呼ばれる所で、そこに暮らす者は皆頭を丸め、日夜鍛錬に励む。

そこに預けられた俺は必然的にその一員となった。

そして、人は俺を“クリリン”と呼ぶ。あだ名ではない、実名だ。

どうやら俺はドラゴンボールの世界のクリリンに憑依してしまっ  
たらしい。

いや、憑依と言うよりは成り代わりと言うべきか？

俺の意識がクリリンの意識を乗っ取って奪ったのか、それとも最  
初から俺こそがクリリンだったのか。

おそらくは後者じゃないかと俺は思っている。俺の中に本物のク  
リリンがいる、とか感じたことないし……仮にそうだったとしたら  
ゾツとしないな……。

ドラゴンボールの世界とえば、かなりデンジャラスなことでも有  
名だ。

いとも簡単に人が死ぬし、星ごと消滅、とかもザラだ。

物語のメインキャラクター達もミスターサタンを除けば、みんな  
一度は死んでいる。その度にドラゴンボールで生き返ってはいるが  
な。

そしてそんな危険なドラゴンボールの登場人物の中で、最多死亡  
回数を誇るのが、この俺“クリリン”。

主人公の親友にして、最終的には地球人最強の戦士にまで上り詰  
める、愛すべき脇役だ。

そんなクリリンになってしまった俺、普通なら「俺は死にたくな  
い！」とか言っつて原作改変を目指すのかもしれないが、今のところ

そんなつもりはない。寧ろ全て原作通りに進めばいいと思っている。

原作通りに進めば最終的にはハッピーエンドが確定しているからだ。

死ぬことに抵抗がないわけじゃない、でも一度死を経験したお陰か、そこまで死にたくないとも思わないのだ、生き返ることが前提ならばの話だが。

幸い前世の俺はなかなかのドラゴンボールファンだった、クリリンとして原作通りに動くのに支障はない。

まず最初は亀仙人への弟子入りだな、原作通りを目指すなら孫悟空と一緒に弟子入りしなければならない。

孫悟空が弟子入りした時期は最初に神龍を呼び出した直ぐ後、つまり空が不自然に暗くなったらカメハウスに行けばいいってことだ。

俺は多林寺の先輩方からの愛の鞭という名のイジメに耐えながら、その日を待った。

そして13歳の誕生日を1ヶ月前に控えた9月某日、遂にその日は来た。

俺が夕方の庭掃除をこなしている時、夕焼けに染まっていた空が

突然暗闇に包まれた。

「来た!!!」

喜びのあまり持っていた箒を放り投げてしまった。その箒が何かに当たって、ガシャアアンという音を立てていたが今は無視だ。

調べによると多林寺からカメハウスまでは徒歩で丸1日くらいかかる。

今すぐ旅立とうと俺は用意していた荷物を取りに自室へ急ぐ。

100メートルを10秒代で駆け抜ける自慢の瞬足が唸りを上げる。

あっという間に自室に辿り着いた俺は、必要最低限の荷物を詰めた風呂敷を背負って、師範に出奔の意を伝えようと、部屋を飛び出す。

が、その時偶然つけていたラジオから、耳を疑うような言葉を耳にした。

『たつた今！ この世界の新たな支配者として君臨したピラフ大王様だ!!! 全世界の人間たちよ、私を敬え!!!』

「な、何い!？」

予想外（後書き）

直ぐに積みそうな匂いがプンプンするぜ！

## ブルマの日記ノマイの報告書(前書き)

ドラゴンボール争奪戦の推移をば。

## ブルマの日記ノマイの報告書

9月1日

ドラゴンレーダーの反応を辿ってパオズ山の奥地に入っていたら小さな家（と言うにはあまりにも貧相だったけれども）が建っていた。

そこには孫悟飯という名前のおじいさんが住んでいて、わたしが淑女らしく丁寧をお願いしたら快くドラゴンボールを譲ってくれた。星は4つ、四星球ね。

しかももう1つドラゴンボールの在処に心当たりがあるみたい、昔の知り合いが持ってたのを見たことがあるらしいわ。

武天老師という人らしいけどどんな人なのかしら？ 悟飯さんが紹介のために付いてきてくれるらしいし、運が向いてきたみたいね。道中空飛ぶ恐竜に襲われたけど、悟飯さんがあっという間に倒してくれた。

武術の心得があるらしい、ボディガードとしても有能ね。

-  
-  
-  
-



9月2日

今日も首尾よく星が3つの三星球を手に入れることができたわ、多少淑女としての尊厳を犠牲にした感は否めないけど。

朝起きたら悟飯さんが大きな亀を抱えていた、ビックリしたわ。

心優しいわたしはその亀に塩水とワカメをあげたわ、そしたらその亀は武天老師さんの知り合いで、お礼にボールをくれるように頼んでくれると言ってくれたの、良いことはするものね。

それで、まあ、色々あつてボールは貰えたわ。詳しく書く必要はないわね、だって大事なのは結果であつて過程ではないんだから。

悟飯さんとは別れた、ボディガードとしてかなり有能だっただけに、少し惜しいことをしたかしら。

-  
-  
-  
-

9月3日

ドラゴンボールの反応がある西に向かって、ひたすら車を走らせる。

特にアクシデントもなく平和な1日だったわ。

-  
-  
-

9月4日

今日もひたすら西へ西へ。

一人旅はすこし寂しい。

-  
-  
-

9月5日

ある村を脅迫していたウーロンとかいう奴を退治して、その報酬として六星球を貰った。

ウーロンって奴は変身が得意な豚男で、その変身した外見だけで村の人たちを脅かしているしょうもない奴だったわ。

最初からそれに気付いていた天才美少女のわたしは、護身用に持っていたピストルで難なく退治してやったわ。

ウーロンは村の人に捕まった、ああいう女性の敵は然るべき所で裁きを受けるべきだと、わたしは思う。

次のドラゴンボールの在処は、ここから南西に3日くらい行った場所。地図にはフライパン山と書いてあるわね。

-  
-  
-  
-

9月6日

南西に向かって川を下っていたらボートのエンジンが直ぐに切れちゃった、これは改良の余地ありね。

もしボートの上でパンツを脱いだり、釣りをしたりしていたら、ジャケットのポケットに入れたカプセルの入ったケースを落としてたかもしれないけど、そんなことはなかったわ。

-  
-  
-  
-

9月7日

南西へ向かってひたすら進む。

今日は気分を変えてバイクで走ってみた。風を切る感覚が気持ちよかった。

-  
-  
-

9月8日

フライパン山に近付いてきたせいか、気温がかなり高い地域になってきたわ。

車の空調を効かしての移動は快適だった。

-  
-  
-

9月9日

今日はとても怖い1日だったわ。

燃え盛るフライパン山の迫力に驚いていると、2mを超える大男に

襲われたの、戦略的撤退をするしかなかったわ。

必死に走って、気付いたら下山していたわ。

まあリーダーによればドラゴンボールはあの炎に囲まれた城の中  
だし、今はどうしようもないわね……後回しにしましょ。  
決して逃げているわけじゃないわ。

-  
-  
-

9月10日

もう家に帰る。

-  
-  
-

9月11日

昨日、残りもう一つのドラゴンボールに向かって車を走らせてい  
たら変なロボットに襲われた。

ロボットは散らばったわたしの荷物の中からドラゴンボールだけを奪って去っていったわ。

油断していたわ、まさかわたしの他にもドラゴンボールを集めている人がいたなんて……。

はっきり言って、あんな奴が相手じゃ、もうどうしようもないわね。

あゝあ、ステキなボーイフレンド欲しかったのになあ……。

## 報告書

件の女がチェックポイント2を通過、手筈通りシユウが女の車を強襲、首尾よくドラゴンボールの強奪に成功。

その後、女を2時間監視。進路を逆にとったので、ドラゴンボールは諦めたと思われる。

ドラゴンボールが6つ集まったところで作戦名“ピラフ様大作戦2!!!”を開始。

2機のピラフマシンに耐炎熱装甲を、残り1機には耐衝撃・斬撃装甲をそれぞれ装備、フライパン山に侵攻する。

敵対勢力は個体名“牛魔王”1人のみ、作戦通り耐衝撃・斬撃装甲を装備したシュウのマシンが足止めにあたり、ピラフ様と私は山の裏手から潜入に成功する。

途中、ピラフ様のマシンが炎に耐えきれず大破するなどのアクシデントに見舞われるが、ピラフ様を迅速に私のマシンに避難させることに成功、事なきを得る。

目標を確保後、シュウに通信、速やかに撤退を開始する。

下山後、シュウと合流。シュウのマシンも半ば大破していたが、名誉の負傷と言えよう。

作戦は成功、遂に我々が世界を支配する時が来ました、ピラフ様。

了

## ブルマの日記ノマイの報告書（後書き）

補足

悟空（大猿）がいなければ孫悟飯は死なない。

悟空がいなければ女性の一人旅にあんな危険物ウーロンを同行させない。  
ホディガード

ウーロン（逃亡者）がいなければ川にカプセルケースを落とさない。

川にカプセル落とさなければ砂漠を歩かない、ヤムチャに出会わない。

悟空（筋斗雲・如意棒持ち）がいなければ牛魔王とは和解できない。

悟空（戦力）がいなければドラゴンボールを取り返そうとは思わない。

そして、ピラフ一味から見て最も近場にあるフライパン山のドラゴンボールについて、彼らが調査してないとは思えない。

以上です。多少無理があるかもしれませんが、とりあえずこんな感じ。

ブルマの口調とか分かりません。





舞台で何が起きたのか（前書き）

主人公の現状把握編

## 舞台で何が起きたのか

オレは多林寺を飛び出した、庭掃除を放棄して、尚且つ放り投げた箒で師範のお気に入りの壺を破壊したオレは、師範より破門を言い渡された。

でも、そんな些細でどうでもいい情報なんて、今のオレの頭にはまるで入ってこなかった。

ピラフが支配者って、ドラゴンボールに願ったってことだよな。  
ウーロンは？ ギャルのパンティーはどうなった！？

オレがいることで何らかのバタフライエフェクトのようなものが起きたとか？ いや、オレはこの13年間殆ど何もしてないし……  
一体どうなっているんだ？

言い知れない不安を覚えたオレは、まず所在地が確定している亀仙人に会いに行くことにした。

神龍が現れたってことは、彼がドラゴンボールを誰かに譲渡したことは確かなんだ。原作通りなら孫悟空も来る筈だし。とりあえずの情報収集には最適の場所だと思う。

オレは急かされるように走りだした。

道中、首をはね飛ばされた肉食恐竜と思われる亡骸を見つけた。

断面からして鋭利な刃物で切られたと思われるその亡骸に、オレはピーンときた。

「これはチチがやったんだよな……？」

確かな原作の跡を見つけて、オレは僅かな安堵感を覚えた。

でも気になった点が一つ。そのような亡骸が幾つも幾つも見つかったことだ。

原作ではチチはテイラノサウルスに似た恐竜の首を飛ばした直後にヤムチャによって気絶、その後悟空に起こされるまでずっと意識を失っていたはずだ。こんなに恐竜の死体があるのは少し違和感がある。

やはり、何かがおかしい。

オレは再び走り始めた。

小休止を入れながら十数時間、漸く海に辿り着いた。

いつの間にか、ヘンゼルとグレーテルのようにばらまかれていた恐竜の死体は途切れていた。

悟空に見つかったのか、違う道を選んだのか（そう言えば彼女は亀仙人の居場所をしらなかったような……）、それとも肉食恐竜の餌食に……。

グロテスクなシーンを想像をしてしまった……。

ま、まあ多分大丈夫だろ。彼女強かったし、今のところオレより強いんじゃないか？

嫌な想像を頭から追い出して、オレは早速海を渡る準備を始めた。海を渡るのには船を使う。偶然にも近くに投棄されたまだ使えそうな船があったのだ、しかもオール付き。

原作のクリリンもこの船を使ったのかな？

そんなことを考えながらオレは海に船を漕ぎ出した。

漸くカメハウスのある孤島に着いた。まずは挨拶と訪問の理由だな。

「武天老師さまはいらっしゃいますか!? 私の名前はクリリン、今日は弟子にして頂きたく、参りました!!!」

第一印象は大事だ、大きな声でハキハキと喋る! バイトの面接と同じだな。

「なんじゃあ? 騒々しいのお」

お、おお…… 亀仙人だ。少し感動だ。

これは所謂この世界を現実と認識せず、この世界の人間をキャラクターとして捉えるなゲス野郎!!! ってやつか?

まあちょっとくらいいいじゃない、ファンなんだもの。

「これをどうぞ、弟子入りにあたってのお近づきの品です」

取り出したの勿論大人の絵本だ。自分では購入できないので、多林寺の師範が隠していたのを少々拝借してきた。

「む、ムムツッ!! これはこれは……」

亀仙人のじいちゃんはあるという間にその絵本の虜となった。掴みは上々だな。

さり気なく亀仙人の姿を観察してみる、やはり胸元にドラゴンボールがない。誰かに渡したのは確かだろう。

「ふむ……これはなかなか……今度悟飯のやつにも見せてやるか……」

えっ？ 今聞き捨てならない言葉が聞こえたような……。

「ふむ……お主なかなか見所があるのう。よろしい、弟子入りの試験を受けさせてやろう!」

「はい! ありがとうございます!」

さっき、悟飯って言ったような……聞き間違いか？

悶々と考えていると、背後の海から突然大きな声が聞こえてきた。

「武天老人さまはおるけえ〜?!?!」

振り向くと妙な格好をした女の子がイルカに乗ってこちらに向かっているのが見えた。

あれはチチ!? 一体どうなっているんだ!? ますます訳が分からなくなってきたぞ!!

オレの混乱をよそに2人は会話を始める。訪問の理由は原作通り、芭蕉扇を借りるのが目的だそう。そして芭蕉扇がないのも原作通り。代わりに亀仙人がフライパン山の火を消しに行くのも原作通りだ。

ただ、孫悟空がいない。それに時期もずれている、チチの訪問は神龍の出現前だろ?

だいたい、火が消えてないのにフライパン山のドラゴンボールをどうやって取ったんだ?

謎は深まる。しかしその謎の一端を解消するチャンスが訪れた。

「それにしても、こここのところ訪問客が多いのお〜」

これはチャンス!! 出来るだけ自然な会話を装って……。

「訪問客? 私の他にも弟子入り志願者がいるんですか?」



「何じゃお主まだおったのか？」

「さつき弟子入り試験を許してくれたじゃないですか！！」

「おお、そうじゃったそうじゃった。それで何だったかの……そうそう訪問客じゃな。うんにゃ、弟子入り志願者ではない。この前来たのはわしの昔の弟子とピッチピッチのギャルじゃ」

「えっ？」

ギャルはブルマとして、昔の弟子……まさか孫悟飯のことか？  
孫悟飯が生きているのか？ 悟空はどうなった？

「あの……その2人と一緒に孫ごくっ……じゃなくて、尻尾の生えた少年はいませんか？」

「尻尾？ そんな奴はおらんかったかの」

いないのか？ 孫悟空が。主人公だぞ？

何かとんでもないことが起こっている気がする。背筋がスウーッと  
とする感覚を覚えた。

その後、亀仙人のじいちゃんはずちと一緒にフライパン山に行くことになった。急ぎの用ではないらしく、コガメラを使わずに歩いて行くらしい。

その間オレは弟子入り試験としてギャルを探して連れてくるように言われた。

イルカに乗って海を渡る2人を見送る。とりあえず、パオズ山に行ってみよう。孫悟空、或いは孫悟飯に会えるはずだ。

オレは多林寺を飛び出した時より何倍にも膨れ上がった不安感を胸に、再び船を漕ぎ始めた。

舞台で何が起きたのか（後書き）

短くても話は進む、次回はパオズ山で現状把握編。

主人公がクリリンに憑依する必要性がない気がしてきました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9431x/>

---

孫悟空がいないドラゴンボール

2011年10月28日11時08分発行